

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三-15
TEL 027-2555-3434
FAX 027-2555-3435
<http://www.neues-asahi.jp>

早朝に窓を開けると秋らしい風が吹き込んできました。

犬の散歩をしている人が一人、二人……。遠く赤城や榛名、妙義の山々、そして空を見上げると秋の気配を感じます。

地球温暖化の影響で降水量の変化に伴う洪水や土砂災害、アメリカ西部やオーストラリアで発生している森林火災、地震や火山活動による災害と新型コロナウイルス感染拡大が再び広がる状況下で経済との関係をどのようにしていくかは大きな問題です。

「美術手帖」の最新刊では、コロナ禍に考えるポスト資本主義とアートではドイツの哲学者マルクス・ガブリエルが資本主義世界とアートの関係性について語っています。また、「贈与」としての美術」の著者で前橋在住の美術家、白川昌生氏と思想家、政治学者の白井聡氏が「贈与」から考える美術と社会というテーマで対談しています。コロナ禍で多くの展覧会や音楽会や演劇などが中止になり、また延期になっています。

長期の自粛生活を強いられ、会議もリモートで、日常生活では手指の消毒、マスク使用、ソーシャルディスタンス。行動範囲も制限されています。今までのような社会に戻るのは出来ないと思える意見が聞きますが、一方では新しい社会を構築していくという前向きな姿勢で行動をおこしている人もいます。

久しぶりに知人の個展、県立美術館での「佐賀町エキジビット・スペース一九八三―二〇〇〇」、高崎市美術館「4つの革命 オープリー・ピアズリーからサルバドール・ダリまで」、ハラミュージウム・アークの「さぼろのかたち 原美術館コレクション」を見てきました。コロナ禍での美術館の新型コロナウイルス感染対策は徹底しています。運営の厳しさは当然でしょうが、社会全体が苦しい時期だからこそ心を豊かにしてくれる作品との出会いと人とのコミュニケーションは重要です。制限はあるものの新しい社会空間、生活空間に対応していきましょう。

また、冬にむかってマスクや消毒液の準備も今のうちにおきましょう。併せて健康診断など体調の管理も忘れずに。

天候不順で野菜の値段も高く、家計のやりくりも大変ですが、調理技術を考えて無駄のない食材利用を……。なかなか手間暇がかかることですが、料理も楽しみの一つとして考え方をえれば良いかもしれません。とにかく前向きに。

(武藤)

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

丸尾康弘展

〈企画〉

日時 十月十日(土)～十八日(日)
午前十時～午後五時(最終日は四時終了)
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

群馬作家展

〈企画〉

日時 十月二十四日(土)～十一月一日(日)
午前十時～午後五時(最終日は四時終了)
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

出品作家

飯出袈裟市 伊藤久米夫 倉田辰彦 須藤 茂
高田年三 田中正子 毒島吉一

上杉一道個展

〈企画〉

日時 十一月七日(土)～十五日(日)
午前十時～午後五時三十分
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

今年五月に実施予定だった「上杉一道個展」が新型コロナウイルス感染の緊急事態宣言に伴い十一月に延期になりました。

日常、歩きながら見る風景や庭先の植物などをキャンパスに描きながら言葉が生まれてくる……。洗練された色彩の中から一人歩く人物や、数人で会話をしている人々の姿が見えてきます。

力強い線と、柔らかいリズムミカルな線が次の動きにつながって周囲の風景をも感じられます。

案内状はノイエスにあります。郵送は次回になります。

*ノイエス朝日は、展覧会会期以外は休廊しています。

ノイエス近況

ノイエス朝日に来廊される方の中には畑仕事をされている方もいて、スタッフもその恩恵にあずかりキュウリや茄子、ゴーヤや葱などをいただいたりします。

子供たちと草刈りをしたり、苗を植えたり、収穫をしたり、また、あらゆる野菜の苗を植え、育てている方も……。

今年も天候不順が続いたので野菜作りも大変だったようです。新鮮な野菜は、夕飯の一品としてシンプルな料理でテーブルに並びます。素材の良さは、あまり手をかけない方が美味しくいただけます。

地域のサポーターとして子供や高齢者とともに畑仕事をしながら環境活動に取り組んでいる姿には頭がさがります。

ノイエス朝日での展覧会は、新型コロナウイルス感染拡大予防策としてソーシャルディスタンスを守りながら多くの方々に来廊していただいています。

展覧会をしている作家と、来廊される一般の方々、作家仲間や詩人、小説家、美術館関係者、新聞記者……。展覧会情報や社会、政治、経済や教育、家庭生活と幅広い話が飛びかいます。

リモートも良いけれど、やはり対面が良いと。

新しい社会がどのように変わるのか不安があります。新しい世代の新しい生き方。新しい生活システム。それに、どこまで対応していいのか？

ふと、道の遠くに輝く一つの温かな光が見えます。

ドアの向こう側には楕円形のテーブルに画家たちが数人愉快地に酒を飲み、歌をうたい、話をしています。

ドアを開けると皆の顔がこちらを向いて、その輪に向かい入れてくれます。時間の過ぎるのも忘れ、心地よい気持ちで過ごした。そんな記憶が蘇ってきます。

過ぎ去った日々を懐かしがるのは年齢を重ねてきたからなのか……。とも思いますが、こんな社会の中で一つの光を見出すのに、その時の空気感は今も十分人の心の救いになると確信しています。

新しい社会になっても、そんな時間を過ごせる日が必ず来ると信じています。